

動物園と展示の維持

園長 小松 守

夏休みの動物園はいつも以上に親子連れでにぎわう。動物との出会いや家族との思い出づくりを楽しみ、多様な姿形や生き方を学んだり、さらには生命や自然の不思議さを感じたりと、動物園の教育的な役割を改めて意識する。

生きた動物に対し「展示」という言葉を使うことに違和感を抱かなくもないが、自然史博物館と同じように動物園は展示機能を持つ施設でもある。動物園の営業を続けるため、展示動物の維持は動物園にとって不可欠な根幹の仕事といえる。適切な動物飼育と計画的な繁殖と継代が求められるが、そこに難しさがある。命ある動物は、病や死を伴うから動物園は常にそれらと向き合わねばならない。

現場の飼育員、獣医師は目に見えない苦勞が絶えない。最近も長く介護した老オオカミを見送ってくれたが、一方で海外から新たなオオカミを迎え、展示のためその馴致にも気を配る。ユキヒョウに新たな命の誕生といううれしいニュースがあったが、その子育てサポートにも気を遣う。また、国内の動物園ではめっきり少なくなったラクダは、大森山動物園でも1頭きりになり、海外から新たな個体を迎え入れ、ラクダの血を絶やさない努力も始まっている。動物園の展示を維持するには飼育員と動物との調和の取れた二人三脚が絶対要件である。



新たに導入したオオカミの姉妹

こんにちは!

あかちゃん

2022年1月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



ユキヒョウ

2022年4月30日に「アサヒ」と「リヒト」の間に1頭の赤ちゃんが生まれました。当園では22年ぶりの繁殖です。詳しくは9ページの飼育レポートをご覧ください。



マーコール

2022年6月11日に3年ぶりに生まれました。3年前に生まれた「ゆべし」がお母さんです。初めてのお産で心配でしたが、子どももしっかりおっぱいを飲み、元気に育っています。「みたらし」という名前になりました。



アビシニアコロブス

2022年7月12日にアビシニアコロブスの「トリトン」と「レイア」の間に3頭目の赤ちゃんが生まれ、「チヨロギ」と名付けられました。アビシニアコロブス一家がとてにぎやかになりました。詳しくは8ページの飼育レポートをご覧ください。

この他、ワオキツネザル、フンボルトペンギン、モルモット、ニホンザルにも赤ちゃんが生まれています。

よろしくね!

仲間入りした動物たち



しなの／メス

トナカイ

2022年3月29日に長野県にある須坂市動物園からトナカイの「しなの」がやってきました。しなののお父さんは、繁殖を目的に当園から須坂に貸し出した「元気」です。元気がお父さんになり、娘のしなのが里帰りを果たしました。

フタコブラクダ

2022年8月17日に8カ月齢のオスと5カ月齢のメスがアメリカから来園しました。2頭はまだ幼くてかわいいラクダです。メスには粉ミルクを1日2回、朝と夕方に飲ませています。早く大きくなってね。



幸／メス 福／オス

ホッキョクオオカミ

2022年4月16日にドイツの動物園から3頭が来園しました。オスの「ムーン」、姉妹の「ルーシー」と「ニッキー」です。ホッキョクオオカミは当園では初めての展示です。詳しくは4ページの特集をご覧ください。



ムーン／オス



ルーシーとニッキー／メス

シマフクロウ



愛花／メス

2022年5月27日にシマフクロウの「愛花」が長野市茶臼山動物園へ旅立ちました。シマフクロウの管理計画に基づく移動です。当園では、今後、シマフクロウのペアを導入して繁殖に取り組んで行く予定です。

大森山を後にした動物たち

元気でね!



令／オス

アムールトラ

2022年5月31日にアムールトラの「令」が那須どうぶつ王国(栃木県)へ移動しました。2019年に生まれた4つ子の中の最後の1頭で、人懐こい性格の人気者でした。

この他、アメリカビーバーの「チャル」(メス)が羽村市動物公園(東京都)へ移動しました。みんな、新しいところでも、頑張っってね。

忘れないよ…

シンリンオオカミ

訃報

オスの「シン」が2022年8月7日に亡くなりました。2005年に富山市ファミリーパークから同腹の「キララ」(メス)と来園後、2010年からは「ジュディー」(メス)と仲良く暮らしました。6月上旬に高齢のため展示を終了し、健康管理ができる動物病院で余生を過ごしていました。(詳しくは6ページの「動物病院から」をご覧ください。)当園のオオカミでは最も長生きで17歳の大往生でした。



シン／オス

レッサーパンダ

2022年5月23日に「ユウタ」が15歳で亡くなりました。2008年10月18日に千葉市動物公園から来園しました。お父さんは、後ろ足で立つ姿がかわいいことで人気を博した風太です。当園ではユウタと「陸」との間に「ゆり」が生まれ、ゆりがこれまで4頭の子どもを産んだので、ユウタは4頭のおじいちゃんでした。



ユウタ／オス

この他、ケヅメリクガメ、フンボルトペンギン、コモンマーモセット、アフリカタテガミヤマアラシ、ワオキツネザル、プレーリードッグ、ニホンザル、ホンDIGツネ、トナカイ、ニホンリス等が亡くなりました。

飼育動物数 (2022年6月末現在)

哺乳類	49種	339点
鳥類	24種	127点
爬虫類	12種	26点

両生類	3種	6点
魚類	3種	15点
無脊椎	1種	23点

合計
92種 536点